



浅野忠利

●フランス革命以後の手工業ギルドの周辺

ヨーロッパ世界は、文芸復興・宗教改革・産業革命という三つの変革を経て、中世から近代へと大きく舵を切る事となる。加えて、1789年から10年に及んだフランス大革命は、王政等旧体制の崩壊と封建的諸特権の破棄を現実のものとした。19世紀の初めから中葉にかけては体制側の反動政策と国民的自由運動との確執が続いてゆく。プロイセンは、もの創りを独占していた手工業ギルドに対して、市場開放を目指して営業自由を掲げ、資本と労働の投入による工場経営への道を拓こうとしていた。これに対し、手工業者は、工場労働者を巻き込み、手工業の伝統を護るのに必要な環境の維持改善に努めていたのである。

●職人プロレタリアートの誕生

本来、プロレタリアートは、生産手段を持たず、自己の労働力を商品として資本家(ブルジョアジー)に売り渡すことによって生計を立てる労働者の階級である。19世紀半ばのドイツの実態は、労働人口の四分之三が手工業に属していたこと、工場が必要とされた熟練労働者が手工業のマイスターと職人によって充足されていたこと、手工業職人の遍歴修業による広域情報網など、プロレタリアートの形成と発展の主導権は手工業職人にあった。手工業の職人達は工場の組織の中にその伝統を持ち込み、工場労働者を巻き込みつつ、自らの使命を自覚した階級に成熟していったのである。

●出発点となった3月革命

1848年はマルクス、エンゲルスの共産党宣言が出され、社会主義理論が展開されると同時に、ヨーロッパ各国で旧体制に改革を求める大衆運動が活発化した。多くの改革は反動勢力により目的を達成出来なかった。このうちドイツの3月革命は「統一と自由」を旗印に、フランクフルト国民議会を産み、この議会で職人プロレタリアートの成長の種が蒔かれた。この3月革命は一旦保守派の反動により後退を余儀なくされるが、1850年代の旧体制側の反動期を耐え忍び深く静かに潜行して、1860年代に備えたのはプロレタリア意識を持って行動した職人と労働者であった。その大きな成果の一つは、1868年には、自らの政党として社会民主党を創立したことである。社会民主党は現在も2大政党の一つとして君臨しているSPDである。

●つかの間のワイマール共和国

この社会民主党は、その後発展を遂げ、1912年の選挙で第一党の座を占めるに至っていた。1918年の

ドイツ革命が勃発した時も、この議会構成が継続されていた事から、皇帝退位と同時に、社会民主党により共和国宣言がなされた。続いて1918年11月社会民主党を中核とする共和国の中央政府が成立し、翌日連合国との休戦条約に調印する運びとなった。新しい民主主義憲法として世界中から期待を集めたワイマール憲法は1919年8月に公布された。こうして、第一次世界大戦後のドイツの再建は社会民主党に委ねられることとなった。しかし、遠大な社会主義社会実現の構想を実行するには、その体制はあまりにも弱体であった。折しも、世界大恐慌の煽りを受け、失業者の激増など国民生活の極度の窮乏の中、国民は極右政党ナチスと左翼の共産党に傾斜し、ナチスは1932年の選挙では第一党となり、1933年には第三帝国を成立させることとなった。ワイマール共和国はわずか15年という短命に終わったのである。しかし、ワイマール憲法は、ナチスによる第三帝国を飛び越え、第一次世界大戦後の西ドイツの復興に計り知れない力となった。加えて、手工業に携わる者は、ワイマール体制においても、「共同体への奉仕を通して、自己の自由を実現する。」という職業観を確固としたものにしていく。

●バウハウスの命運

一方バウハウスはワイマール共和国と同じく1919年、政権党の社会民主党の後押しで、国立の造形教育機関として創立された。ウイリアム・モリスのアーツアンドクラフト運動やドイツ工作連盟などの近代デザインの流れを受け継ぎ、手工業ギルドが活躍した中世の工匠の共同体(バウヒュッテ)にあるべき姿を求めた。初代の校長建築家グロピウスは創立に当たりマニフェストですべての工芸は建築に集約、統一されるべきことを、そして建築家も彫刻家も画家もみな手工業の技術に回帰しなければならないと謳った。数々の生活環境を改善する製品を数多く生み出し、大きな成果を上げていたにもかかわらず、ワイマールで国立の機関として出発したものの、1925年には Dessau に移り市立、さらに1932年にはベルリンで私立の施設として生き残りをかけたが、ナチス政権の成立とともに廃校となった。バウハウスで活躍した人々の多くは、アメリカ合衆国に亡命し、世界を主導する建築家、画家、工芸家として、第二次世界大戦後も質の高い作品を世に送り出し続けてきた。一方、ヨーロッパにおいては、ナチスの重圧に耐えて、第二次世界大戦、西ドイツのウルム造形大学がバウハウスの遺産を受け継いだのである。

今回は、バウハウスの造形教育について触れたい。以上